

【特選】

大好きなひいばあちゃん

浜小学校 四年 中島 むさし

ぼくには、ひいばあちゃんがいます。名前は、「中島しずか」九十二才で、かしまのばあちゃんと、おばのちはちゃんとして三人でくらしています。

ひいばあちゃんは、「しずか」とかわいい名前です。昔は、体を動かすことがとくいで体そうをしたこともあります。だから、おばあちゃんになってからも、自てん車でいろんな所に行っていたようです。ひいばあちゃんはすごいなあ。ほかには、いろいろな物を作ることが好きで、毛糸を使って、セーターやぼうしを作ることが上手です。ぼくにも、赤ちゃんの時、ぼうしを作ってくれました。

ひいばあちゃんとは、あじさいがさいた時には、ぼくと姉と弟とお母さんとあじさいを見に行きました。さくらがさいたらさくらを見に行きました。ほかにも、チューリップやこうようも見に行ったことがあります。

でも、今は、ひいばあちゃんといっしょに行くことができなくなりました。なぜかというと、体を動かすことができなくなったからです。前までは、外で草むしりもできていたひいばあちゃんでしたが、今はそれもむずかしくなりました。

最近のひいばあちゃんは、ベッドでねていることが多いです。それでもアイパッドのユーチューブでえんかをみながら歌ったり、DVDでぼくの試合を見たり、あとはおしやべりをしたりしています。

時々、トイレに行く時は、体がいたいみたいです。おふ

ろに入るときにはおばあちゃんに手伝ってもらっています。先に天国に行ってしまったおじいちゃんに会いたいのかなと思う時もあります。

いす。これからも会いに行くから、ぼくといっしょに遊ぼうね。ひいばあちゃん、いつもありがとう。

ぼくは、たくさんのことを手伝うことは、あんまりできないけど、いっしょにいて、おしゃべりしたり楽しませたりすることはできるかもしれません。

ひいばあちゃんは、九十二才。子どもの時にせんそうを体けんしています。小さい時からせんそうが続いて、たくさん大変だったと聞いています。ぼくは、学校の平和集会でも六年生からせんそうの話聞きました。戦争は、とてもこわいなあと思いました。ひいばあちゃんの子どものころとちがって、ぼくは今たくさん遊べて、食べられて、大変なことはありません。

ひいばあちゃんには、毎日、笑顔で楽しくすごしてほしい